

# 祈り込めて植樹会

## 大東高生と桜ライン311

陸前高田

陸前高田市広田町で19日、同市のNPO法人「桜ライン311」(岡本翔馬代表)と、一関市の県立大東高校の生徒たち27人が「高校生発 がんばっぺ! 岩手」植樹会を開いた。生徒たちはサクラの苗木を植えながら、「3年前に起きたような被害が再び発生しないように」と祈りを込めた。

活動は、同校が地元で行っている地域活性化事業「がんばっぺ! 岩手」の一環。同校の生徒が実行委員会を組織し、震災の年から被災地でさまざまなボランティア活動を展開している。同法人は、震災の記

憶を後世に伝えるため、東日本大震災の津波到達点にサクラの木を植えている。岡本代表が先月、同校で講演を行ったことがきっかけで、生徒たちが植樹会参加に手を挙げた。この日は最初に、小友町の小友地区コミュニティセンターで同法人のドキュメンタリー映画「あの街に桜が咲けば」を観賞。その後昼休みをはさんでから、広田町大祝に住む村上榮二さん(62)方の土地で、オオヤマザクラ6本の植樹を開始した。

生徒たちは6グループで作業を分担。スコップで穴を掘って苗を入れ、培養土と水を混ぜ合わせながら丁寧に土をかぶせていった。2年の吉田清貴君(17)は「もとの町のようになるにはまだまだ時間がかかると思う。こういった活動を通して、震災風化をできるだけ減らすことにつながる」とエール。



植樹を行った大東高の生徒たち＝広田町

2014年3月20日 東海新報